

JAPAN HOUSE

SÃO PAULO

LONDON

LOS ANGELES

JAPAN HOUSE 実施報告書

————— 2023年3月 —————

JAPAN HOUSE

来館者数

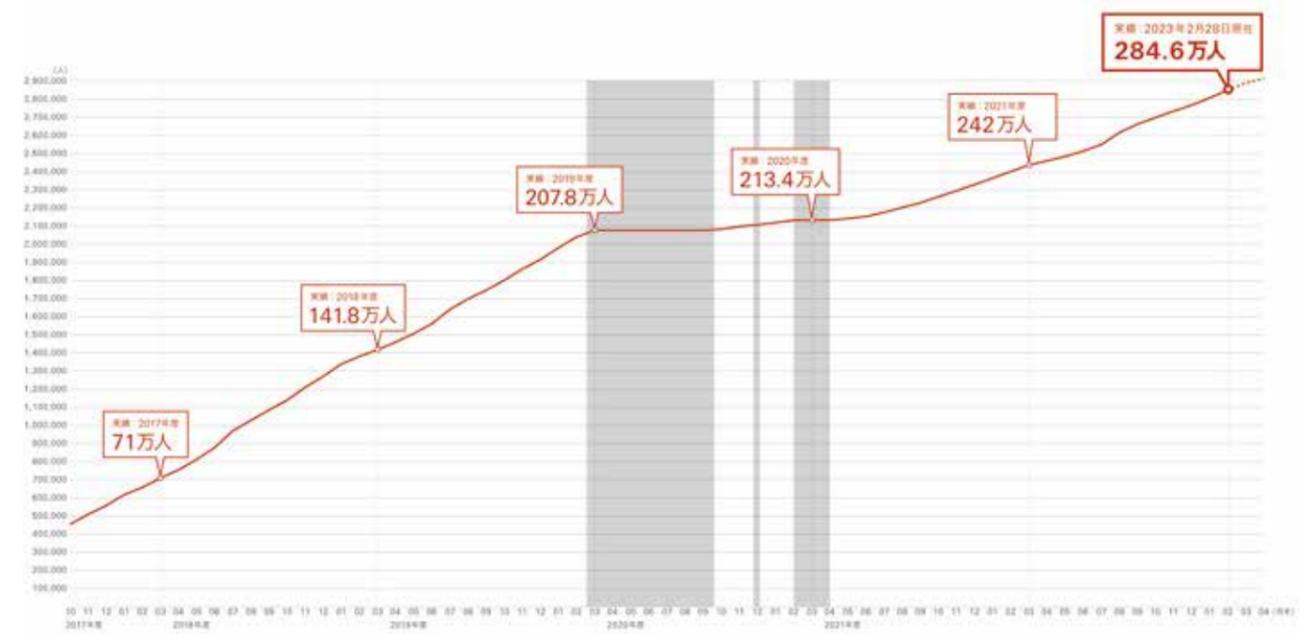
ポスト・コロナ期の来館者と JAPAN HOUSEの今後の展望

JAPAN HOUSEは2017年のサンパウロに続き、2018年にはロンドン、ロサンゼルスが開館しました。以来、各拠点の来館者数は毎年ほぼ目標を上回り、増加し、順調に数字を伸ばしてきました。2020年3月以降は新型コロナウイルス感染症の影響により各拠点とも様々な制約を受けましたが、その後来館者は徐々にコロナ禍以前の水準に向けて戻りつつあります。日本の多様な魅力、政策や取組を伝え戦略的に発信する中で、累計来館者数は(2023年2月現在)480万人を超え、各都市の主要文化施設として新たな成長段階へ進むことが期待されています。

人々の移動・行動の再開により、コロナ禍からポスト・コロナ期にシフトしていく中で、JAPAN HOUSEはリアルとバーチャルのそれぞれの良さを活かしたハイブリット型発信を展開しました。例えば、展示企画に合わせて、展示のバーチャルツアーやウェビナーのみならず、日本の地域性、技術の探求などを伝えるために日本の職人が直接現地へ赴き、それぞれのストーリーや技術を披露するリアルの場も設けました。こうして、展示内容が幾重にも記憶される要素を取り込み、日本へのインバウンド促進と平行して日本の地方活性化につながるような対面の講演やワークショップも行うなど、ランドマークとしての訴求力もうまく活用しながら、人と人のつながりの再構築を推進するための企画を展開しました。さらに、他の文化施設やギャラリーとも広く連携・協力し、例えば企画イベントの開催場所を拠点外にも設け、JAPAN HOUSEの活動についてより多くの人に知ってもらう取り組みも行いました。また、コロナ禍において加速した展示のバーチャル・ツアーや関連イベント、著名シンクタンク・大学と連携したウェビナー等はポスト・コロナ期のなかでもJAPAN HOUSE事業の定番として定着しています。

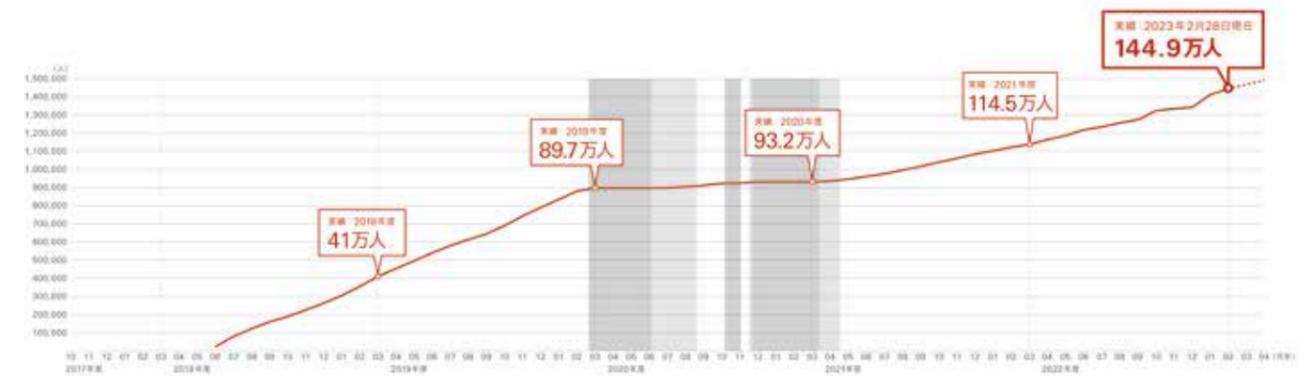
リアルとバーチャルのハイブリット発信を効率よく効果的に活用することに加え、JAPAN HOUSEで実施した展示を他都市・他国で展開する「横展開」の要望も各地の主要文化施設などから寄せられています。こうしてJAPAN HOUSEの訴求力は面的にもより一層高まり、幅広い層に向けて日本の多様な魅力、政策や取組を伝え、親日派・知日派の裾野を拡大していくことを目的とする戦略的対外発信拠点として浸透しています。日本への理解・共感を深める発信の舞台として、また、ビジネス・インバウンドの機会創出や知的交流を生み出すプラットフォームとして、進化しつつあるJAPAN HOUSEの更なる発展を目指していきます。

※ グラフは各月の末日の集計
※ 新型コロナウイルス感染症対策による休館期間
■ 全館休館 ■ 一部休館



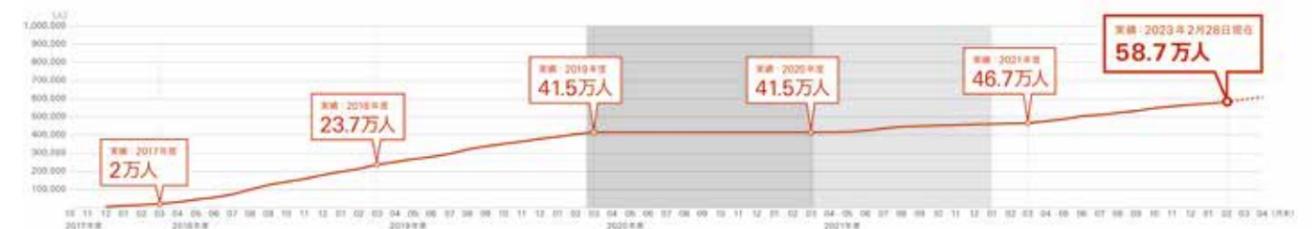
サンパウロ | 2017年4月開館

2020年2月には累計来館者数200万人を突破し、サンパウロ市内の主要な文化施設として定着。2022年度には伝統文化からメディアアート、テクノロジー、食文化など幅広く発信。バリアフリーによる施設のアクセシビリティをさらに強化して来館を促進。2023年度、引き続き先端テクノロジーも重視しつつ、世代を超えて日本の驚きや発見を提供できる場を目指していく。



ロンドン | 2018年6月開館

コロナ禍においては、閉館と開館を繰り返すなど大きな影響を受けたが、その後、徐々に来場客も回復し、2022年10月には累計来場者が130万人を突破。オンラインも活用しつつ、著名な現地文化施設との連携事業や日本の地方の魅力を発信する事業も織り交ぜつつ、多彩でバランスのとれた大小様々な企画を展開。引き続き良質で意欲的な企画の実現を目指していく。



ロサンゼルス | 2017年12月一部開館、2018年8月全館開館

全館開館後、着実に来館者数が伸長。2022年度は、コロナ禍による制約の緩和に伴い来場者数も堅調に推移。オンサイトとオンラインを併用し、日本の地方自治体や企業等と連携したオールジャパン体制で、食、映画、伝統技術、防災をはじめ様々な事業を展開したが、特にレストラン形式の食事業「Ramen Discoveries」は好評を博し、展覧会「The Art of the Ramen Bowl」とのシナジーを生み出した。今後も企画や施設を相互連携させた複合・多角的な発信事業を目指していく。




JAPAN HOUSE
 ———
 SÃO PAULO



サンパウロ

2017年4月の開館から6年目を迎えたジャパン・ハウス サンパウロでは、これまで、建築、技術、食、ファッション、芸術など様々な日本の魅力をテーマに展示企画を展開。コロナ禍を踏まえ、展示（リアル）とデジタル双方の強みを最大限に活用した発信を行っています。また、多言語発信やブラジル国内外（クリチバ、ポルト・アレグレ、ベレン、レシフェ、アルゼンチン、メキシコ）での横展開など、中南米への発信を強化しています。

2022年度は伝統文化から現代アート・ファッション・建築など多岐に展開する「組紐」の魅力を伝える展示や伝統と現代的な感性を融合させた日本の革新的なジュエリーデザイナーの作品の展示から始まり、7月には日本を代表するメディアアート集団「ライゾマティクス」によるアートとテクノロジーを融合させた体験型展示を行いました。10月からはラーメンの歴史や文化に着目するだけでなく機能性とデザインを融合させた美濃焼のラーメンどんぶり展、さらに競技用義足開発で世界をリードする日本人エンジニアの活動を中心に、多様性を尊重する社会の実現を目指す取り組みに着目した展示を開催しました。

また、日本の政策・取組の発信については、日本の外交政策（インド太平洋等）、日本と東アジア情勢、日伯・日ラ米関係、東アジアの地経学、サイバー・テクノロジー、ダイバーシティ、環境・気候変動・SDGsなど多岐にわたるテーマについて、著名シンクタンクとも連携したのものも含め、積極的にウェビナー等を実施しています。




JAPAN HOUSE
 ———
 LONDON

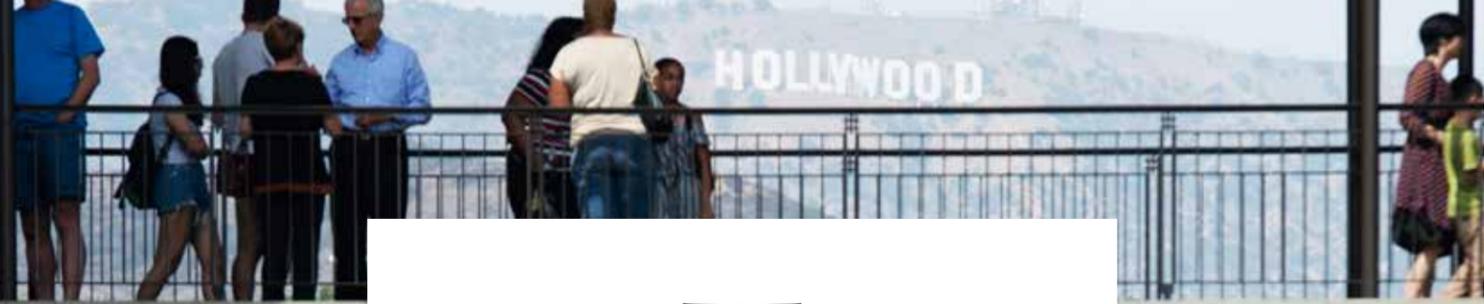


ロンドン

2018年6月の開館以来ジャパン・ハウス ロンドンでは、日本の伝統的な職人技から最先端の科学技術に至るまで幅広いテーマを扱った企画展示を行っています。コロナ以前に戻りつつある今日において、魅力あるイベントやコンテンツをリアルとバーチャルを組み合わせで展開。

2022年度は、写真、漫画、工芸、テクノロジー、建築などさまざまな切り口から「窓」について紹介する「窓学 窓は文明であり、文化である」展、瀬戸内海の犬島で2008年から進められてきたアートとランドスケープのプロジェクトを紹介する「シンビオシス：生きられた島」展、「木」をテーマとした飛騨・高山地域に伝わる技術や歴史文化、作品を通して、日本のものづくりを中心に飛騨・高山地域を紹介した「飛騨の匠、伝統は未来を拓く」展を実施しました。そして、2月からは、「組紐」をテーマに、一条の紐に宿る魅力、潜在的な可能性を明らかにする「KUMIHIMO」展を開催しました。この他、日本の地域と伝統遺産やその技法、歴史文化などとともに、展示や講演、デモンストレーションなど複合的に発信しており、富山県高岡市内の梵鐘などもしました。

また、日本の政策・取組の発信については、日本の外交政策（サミット議長国として）、日英とASEAN関係、対アフリカ協力、科学技術・イノベーション、環境・SDGsなど多岐にわたるテーマについて、著名シンクタンクと連携したのものも含め、積極的にウェビナー等を実施しています。



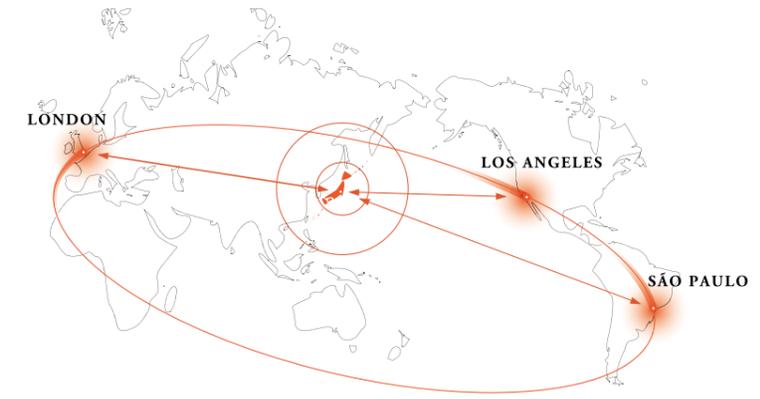
ロサンゼルス

2018年8月に全館開館したジャパン・ハウス ロサンゼルスでは、エンターテインメント産業の中心地ハリウッドという地域性を活かし、日本の魅力を多角的に伝える事業を展開してきました。コロナ禍を経て、オンサイトとオンラインを併用しながら、日本各地の伝統や文化、価値観に触れつつ、人々が共鳴共感し、自分のライフスタイルに日本を取り入れたいと思ってもらえるような発信を心がけています。

2022年度は、日本のラーメンの器(どんぶり)に焦点を当て、日本を代表するアーティストがデザインした器とその産地として有名な美濃焼の歴史・技法等を紹介する「The Art of the Ramen Bowl」展を実施しました。また、竹工芸家・四代田辺竹雲齋が竹ひごで制作したインスタレーション作品を通じて、日本と自然の関係性や自然資源の持続可能性を伝える「LIFE CYCLES」展、さらに、東日本大震災とその復興、そこから始まった国際的な防災・復興の研究や活動に焦点を当てた「リジェネラティブ・アーバニズム」展を開催しました。これらの展示の関連企画やバーチャルツアーの他、様々なテーマについて、ウェビナーやワークショップを行いました。

さらに、日本の政策・取組の発信については、安全保障(日米同盟と東アジア・インド太平洋)、日本の農林水産物・食品の輸出促進及び日本食の普及、気候変動・水素エネルギー、ダイバーシティ・女性活躍、防災など多岐にわたるテーマについて、著名シンクタンクや大学と連携したものも含め、積極的にウェビナー等を実施しています。

巡回企画展と 各拠点での企画展



JAPAN HOUSEは、内容のしっかりとしたコンテンツを、常態的に受け入れる現地側の体制と、海外3拠点を情報発信拠点として活用しようとする日本側の能動性がかみ合うことでプロジェクトが形成されています。

3都市の拠点には、館長や局長がおり、現地では彼らが中心となり、施設運営の姿勢、開催する展覧会の吟味等において管理をしています。

ギャラリーで開催される展覧会は、日本での公募を経て選出された「巡回企画展」と各拠点で企画・制作された「現地企画展」があります。各都市の企画展は互いに利用し合い、生き生きとした情報発信力のある展覧会により日本と3拠点に脈動と連携が生み出されてきています。いずれの展覧会も、ハイカルチャーからサブカルチャー、ハイテクノロジーにも正面から向き合います。

JAPAN HOUSE
São Paulo

名誉館長: ルーベンス・リクペロ
館長: エリック・クルッグ
副館長・事務局次長: カルロス・アウグスト・ホーザ
企画担当局長: ナターシャ・バルザーギ・ジーネン
運営担当局長: クラウジオ・ハジメ・クリタ
経理担当局長: ヒカルド・フェハス

JAPAN HOUSE
London

館長: サム・ソーン
企画局長: サイモン・ライト
経営企画局長: キャロリン・バーネット
マーケティング&コミュニケーションズ局長: ハイディ 伊佐

JAPAN HOUSE
Los Angeles

館長: 海部優子
事務局長: 宮内祥男
総務局長: ヒロコ・ジョンソン
PR・マーケティング局長: 中之内里沙
名誉顧問: ラリー・エリソン

窓学 —窓は文明であり、文化である—
Windowology: New Architectural Views from Japan

企画者：
公益財団法人
窓研究所

写真、漫画、工芸、テクノロジー、建築など
さまざまな切り口から「窓」について紹介する展覧会。
窓が果たす役割を解明するだけでなく、
窓自体が文化を映し出すものとして捉えることで、
日本の文化に新たな眼差しを向けます。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2020年10月24日—2021年1月3日〈バーチャル展示〉	ロサンゼルス	オンライン展示継続中
2021年6月29日—8月22日	サンパウロ	43,611人 + オンライン展示継続中
2021年12月1日—2022年4月24日	ロンドン	103,922人 + オンライン展示継続中



WAVE: New Currents in Japanese Graphic Arts

企画者：
ヒロ杉山、高橋キンタロー

昭和期の経済成長を背景に、欧米諸国とは全く異なる
独自の発展を遂げた日本のイラストレーション。
現代および未来に活躍するクリエイティビティを結集し、
日本のサブカルチャー文化の核ともなりうる
今日のイラストレーションの魅力の世界へ伝える展覧会。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2021年9月18日—2021年11月28日	ロサンゼルス	6,422人 + オンライン展示継続中
2022年2月21日—5月1日	サンパウロ	79,584人 + オンライン展示継続中
2023年7月3日—10月22日(予定)	ロンドン	—

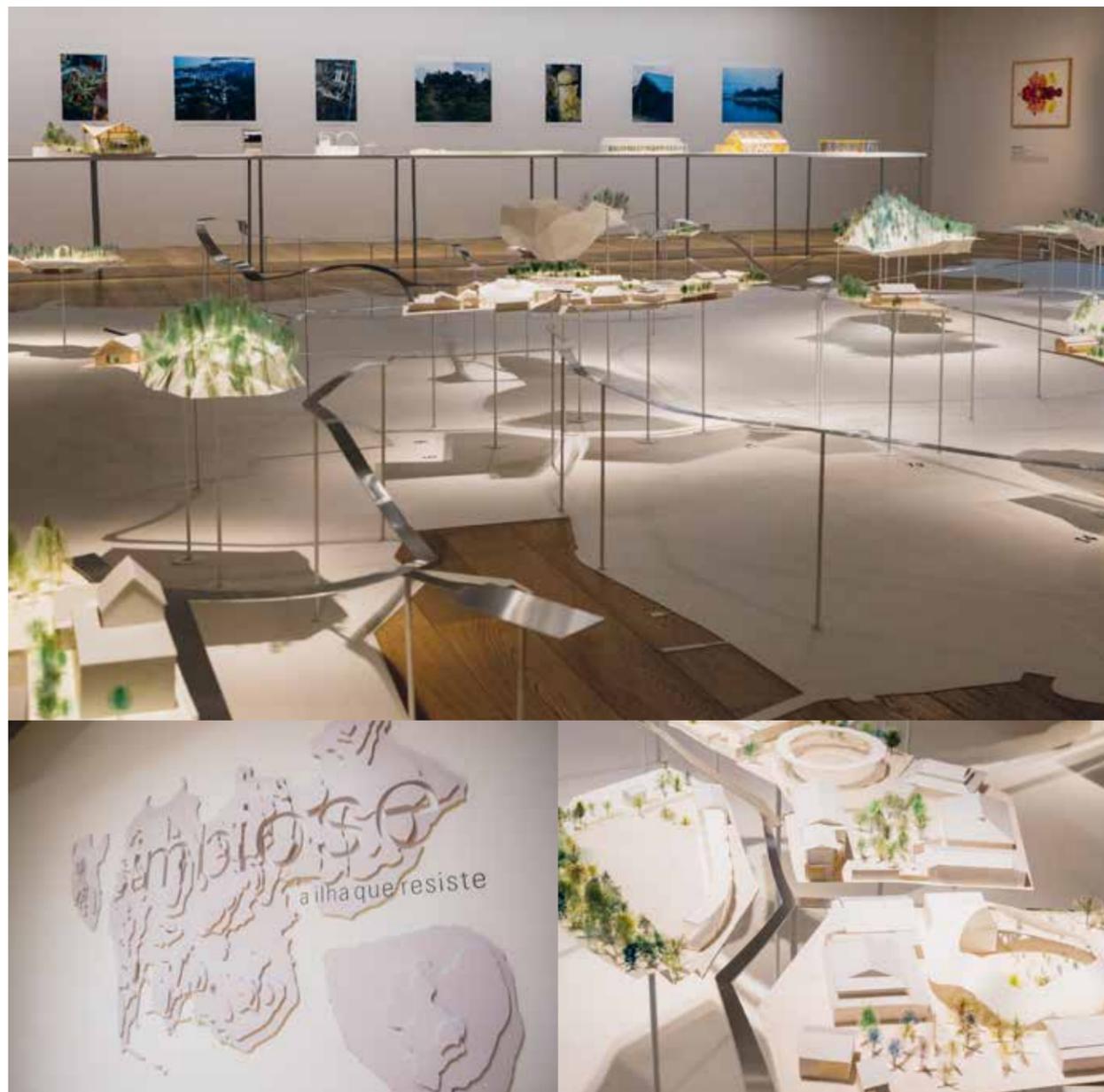


シンビオシス: 生きられた島
Symbiosis: Living Island

企画者:
Hasegawa Lab+SANAA

瀬戸内海の犬島で2008年から進められてきたアートとランドスケープのプロジェクトを紹介する展覧会。高齢化が進んだこの小さな島における活動を、地方活性化やエコロジーなどの視点から問いかける。アート、建築、さまざまなプログラムと、内外の人々との交わりから導かれる日本的な共生の美学を世界に発信する。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2021年11月30日—2022年2月6日	サンパウロ	76,636人+オンライン展示継続中
2022年5月21日—9月4日	ロンドン	83,621人+オンライン展示継続中
2023年4月14日—7月5日(予定)	ロサンゼルス	—

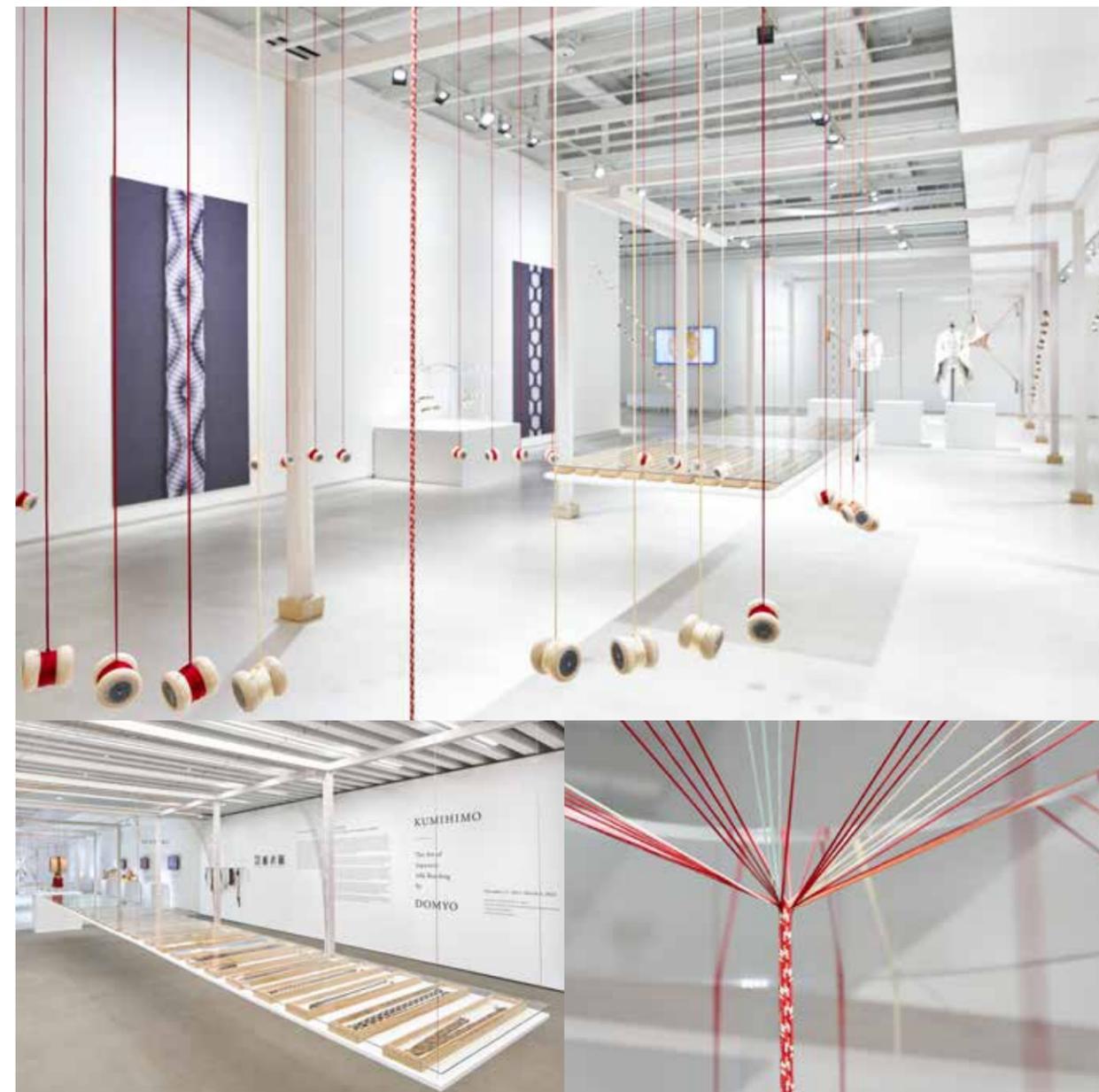


KUMIHIMO:
The Art of Japanese Silk Braiding by DOMYO

企画者:
株式会社道明

組紐をテーマに、一条の紐に宿る魅力、潜在的な可能性を明らかにする展覧会。復元作品のアーカイブから紹介する歴史的展開、数学・工学系研究により導出される構造的特徴、そして現代のファッション、アート、建築など多彩な分野で活躍する才能と組紐の協働を総合し、古くて新しい組紐の魅力伝える。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2021年12月11日—2022年3月6日	ロサンゼルス	7,557人+オンライン展示継続中
2022年5月24日—10月23日	サンパウロ	212,668人+オンライン展示継続中
2023年2月23日—6月11日(予定)	ロンドン	—



企画展

[ÍM]PARES
インパレス

2022年4月5日—6月12日

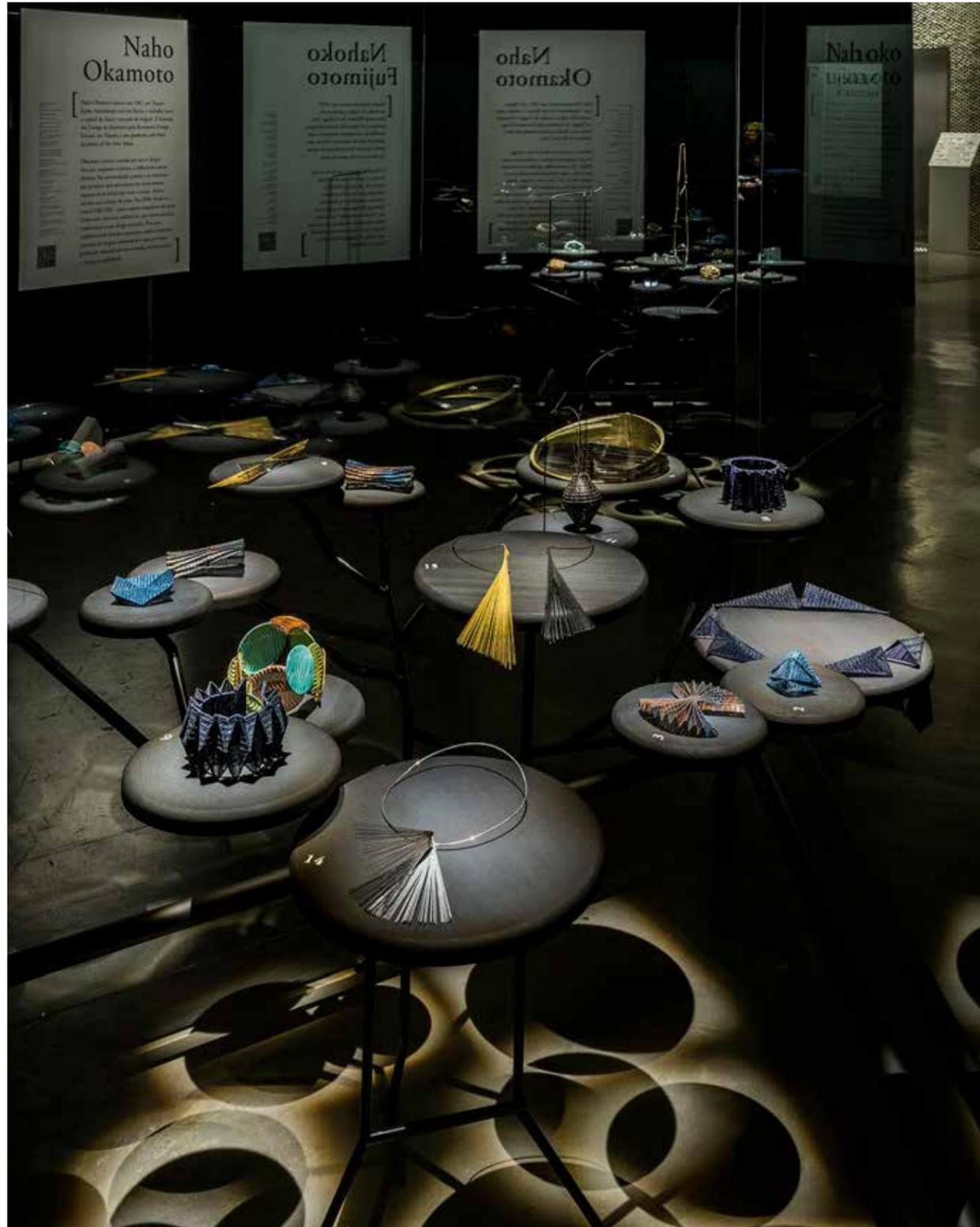
来場者数：85,917人

〈オンライン展示継続中〉

後援：公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会 (JJDA)

Photo：Ding Musa

金属、布、硝子、竹、籐、真珠、貝殻、紙や卵の殻などを用いて魅力的なジュエリーを生み出す日本人女性デザイナーの作品を紹介。本展ではネックレス、ペンダント、ピアス、指輪、プレスレットやブローチなどの作品を75点展示。それぞれのデザイナーの作品から日本の美意識をたどる企画。



企画展

不可視なモノ
ライゾマティクス

2022年7月12日—10月2日

来場者数：125,604人

〈オンライン展示継続中〉

コンテンツホルダー：Rhizomatiks

Photo：Marina Melchers

アートとテクノロジーの融合による企画展。最新テクノロジー、緻密なデータ分析、人とテクノロジーの関係を通して、日本の最新メディアアートの世界を紹介。4つのインスタレーションを通じてバーチャルとリアル往来なども体感できる企画。



企画展

Technology in Movement-Xiborg

2022年11月8日—2023年3月5日

来場者数：136,591人

コンテンツホルダー：株式会社Xiborg

Photo：André Yamamoto

スポーツとテクノロジーをテーマに、競技用義肢の分野で最先端技術の開発に取り組む日本人エンジニアの作品を通じて、ダイバーシティ&インクルージョンに向けた日本の取り組みを紹介。実物の展示やビデオを通して義足の世界を感じることができる他、直接義肢を体験できるインタラクティブな機会も提供。



企画展

The Art of the RAMEN Bowl

2022年10月18日—2023年2月5日

来場者数：163,503人

共催：株式会社TSDO、セラミックパレー協議会

企画：佐藤 卓 | TSDO Inc.

橋本麻里 |ライター・エディター、公益財団法人永青文庫副館長

Photo: Ale Virgilio, Wagner Romano

ラーメンの歴史や文化にも触れつつ、ラーメンの「どんぶり」そのものにスポットライトを当てた企画展。日本一のラーメンどんぶりの産地である美濃地域やその茶碗、食器などの陶磁器の歴史も紹介。



イベント

Innovation in Motion

2022年11月18日—12月11日

来場者数：25,011人

共催：Toyota do Brasil Ltda.

Photo: Rogerio Cassimiro, Rafael Cusato

日本のカーボンニュートラルへの取り組みと主要産業のひとつである自動車産業を題材に、水素を含む燃料電池自動車、電気自動車やハイブリッド車などの最新技術を説明しつつ、日本の産官が示す将来のモビリティやサステナビリティを紹介。



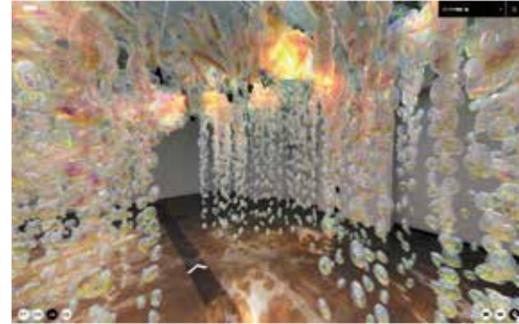
バーチャルツアー

DAISY BALLOON
—バランス

〈オンライン展示継続中〉

コンテンツホルダー：Daisy Balloon

2021年度の企画展として好評を博した「DAISY BALLOON」による『バランス』展をバーチャル展示として継続中。この作品は9,000個以上のバルーンを用いて制作したインスタレーションであり、自然のサイクルからインスピレーションを得た作品を通して日々変化する必然的な時間の流れを表現した。



オンラインイベント **

銀行のデジタル化への道と
統合サービスの進化

2022年6月14日

出演：シンシア・スコヴィーネ・バルセロス | プラダスコ社 テクノロジー・ディレクター、
ジミー・ルイ | BV銀行デジタル戦略・イノベーションスーパーバイザー、
ミルトン・デ・ロンチ・ホドリガス・ジュニオール | NEC Brasil ビジネスディレクター、
チアゴ・マシャード | Inter銀行 デジタルプロダクトディレクター

「つながり」と題したJAPAN HOUSE SÃO PAULOのハウス スポンサー企業との共催シリーズ企画。今回は、AI、クラウド、生体認証、サイバーセキュリティーなどの技術革新が進む銀行サービス分野の進化について専門家が対談。



バーチャルツアー

Parade
(a Drip, a Drop,
the End of the Tale)

〈オンライン展示継続中〉

コンテンツホルダー：毛利悠子

日本文化のひとつの側面である「はかなさ」や「無常」を感じさせるキネティックアートとサウンドアート。「用の美」を尊重し、日用品を用いたインスタレーションから普遍性を表現。



ハイブリッド講演 **

日本におけるサステナビリティ
の議論：SDGS及びESGは地
域及グローバルの政策形成と
ビジネス発展にいかに取り込ま
れているか？

2022年8月31日

共同企画：広報マーケティング学院 (ESPM)

スピーカー

鈴木政史 | 上智大学教授

モデレーター

アレクサンドレ・ウエハラ | ESPM教授



鈴木教授から、世界の気候変動の状況に関し、2050年までに温室効果ガス排出をゼロにしなければならず、その実現のために日本企業のイノベーション技術が活用できると指摘。また、地域コミュニティにおいては、小規模のイノベーション技術が環境面だけでなく社会的、経済的に好ましい影響を及ぼし得るとも指摘。さらに、日伯間では令和4年7月に気候変動対策を中心とする二国間協力を進めるための宣言書が署名されたことを紹介し、今後のさらなる協力強化に期待したい旨述べました。

ウェビナー **

東アジアにおける緊張：
日本の中露への対応

2022年12月7日

共同企画：フェルナンド・エンリケ・
カルドゾ財団 (FFHC)

スピーカー

道下徳成 | 政策研究大学院大学副学長

モデレーター

セルジオ・ファウスト | FFHC理事



道下副学長から、世界の軍事力やパワーバランスのシフトを解説した上で、我が国の領土保全にかかる問題も含めた東アジアの安全保障について説明。日本は安全保障面での取組を強化する必要があるとして、防衛費の大幅増、米国との関係強化、東アジア地域での安全保障パートナーの強化について指摘しました。

ウェビナー **

東アジアにおける
地経学的ダイナミクス

2022年12月14日

共同企画：ジェットリョ・ヴァルガス財団 (FGV)
国際関係学部

スピーカー

鈴木一人 | 東京大学公共政策大学院教授

モデレーター

カロリナ・メレツケ | FGV国際関係学部教授



鈴木教授から、戦後より今日に至る自由貿易体制の確立過程に触れ、経済が外交政策の遂行に利用されている現状について指摘しつつ、現下の米中対立が世界経済に与える影響等について解説。その上で、日本の経済安全保障推進法の骨子や意義等について説明。また、WTOが機能不全に陥っているとの指摘に対し、日米豪印4か国の枠組み (QUAD) にも触れつつ、部分的なグループ内ではグローバル経済が機能している旨言及しました。

企画展

飛驒の匠
伝統は未来を拓く

2022年9月29日—1月29日
来場者数：131,809人
(オンライン展示継続中)
協力：岐阜県高山市

森林に囲まれた岐阜県飛驒地域で1300年にわたり受け継がれてきた「飛驒の匠」と呼ばれる木工職人たちの技術や伝統、そして歴史を通じて、日本のものづくりを紹介する企画。「飛驒の匠」による様々な木製の伝統工芸品をはじめ、世界の家具デザイン界に影響を与えている飛驒の家具、素材となる飛驒高山地域の森で育つ多様な樹種や木材を加工するために使われてきた古い大工道具なども展示。



企画展関連イベント

ハイブリッドイベント **

飛驒高山の文化財の
保全と補修：牛丸岳彦トーク

2022年11月11日

協力：岐阜県高山市
出演：牛丸岳彦 | 高山市教育委員会文化財課長

企画展のキュレーターチームと日本の木工職人がロンドンを訪れ、飛驒高山エリアにおける文化遺産について保護の側面からひもとき、次世代のためにどのように遺産を継承してきたのかについて紹介するトークイベント。



ハイブリッドイベント **

木と暮らす。
牧野泰之とケヴィン・マーティン
によるパネルトーク

2022年11月27日

出演：牧野泰之 | 樹木効能研究家、木工家、(株)、FUSHI代表
Kevin Martin | Royal Botanic Gardens,
Kew. Head of Tree Collections and Arboriculture

飛驒の匠展関連イベントとして、飛驒高山を拠点に木材利用について研究している専門家と英国側の専門家による、木と人との関係における木工の新たな側面を探り、「木」の可能性について議論する講演会を実施。



展示 (SHOP内)

飛驒春慶

2022年10月28日—2月22日

飛驒春慶は江戸時代末期から明治にかけて、重箱のような角(かく)ものに活用され、茶器や花器、家具などに現在も活かされている。透漆塗が特徴とされている飛驒・高山地域の産品を展覧会に関連して説明・展示し、期間中、特別販売も実施。



イベント

おりんの音：伝統工芸士の
島谷好徳による
デモンストレーション

2022年11月3日

協力：富山県観光振興室、
独立行政法人 国際観光振興機構 (JNTO)

富山県高岡市内で作られる様々な種類の梵鐘を紹介し、その製作工程を説明しながら、仏教文化における梵鐘の特徴についての講演を開催。また、梵鐘の音色の実演も実施。



実演・展示

クィーンズ・ギャラリーでの
生け花実演・展示

2023年1月26日

共催：クィーンズ・ギャラリー
出演：小泉・ハンソン・箆子

日本と英国の間の外交、文化、芸術交流を通じて得られたロイヤル・コレクションが所蔵する日本の芸術作品の全貌を初めて展示する「Japan: Courts and Culture」展がバッキンガム宮殿クィーンズ・ギャラリーにおいて開催されたのを機に、ジャパン・ハウス ロンドンでは、様々な連携イベントを開催。日本の季節における花の芸術として2023年1月26日に行われたクィーンズ・ギャラリーでの生け花の実演・展示はそのうちのひとつ。



ハイブリッドイベント **

持続可能な漆の修復：
「人間国宝」室瀬和美との対談

2023年2月15日

共催：バッキンガム宮殿ロイヤルコレクション・
トラスト、セインズベリー日本藝術研究所 (SISJAC)
出演：室瀬和美 | 漆芸家・重要無形文化財
「蒔絵」保持者、ニコール・クーリッジ・ルマニ
エール | セインズベリー日本藝術研究所 所長

人間国宝の技を紹介することで日本の芸術、デザイン、文化に対する理解や評価を深めるイベントを開催。室瀬和美氏（漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者）を招いて、伊勢神宮や正倉院などの修復作業や、自ら手がける創作活動等、持続可能な漆芸修復についてニコール・クーリッジ・ルマニエール氏（セインズベリー日本藝術研究所所長）と対談。さらに、漆と創造をテーマに、室瀬氏による漆芸技法を紹介。



ワークショップ

NHK ワールド
相撲

2022年5月、7月、9月、11月、
2023年1月、3月

大相撲の各場所中にジャパン・ハウス ロンドン館内でNHKワールドジャパン「大相撲ハイライト」(英語)のライブ上映を実施。ロンドンでの大相撲人気の中で、ハイライトでは長い歴史を誇る日本発祥のスポーツの実況解説や背景情報を土俵の外から放映。

© NHK G-Media



ハイブリッドイベント **

19世紀の日本画家
「河鍋昉斎」

2022年5月26日

協力：ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ (RA)
出演：レベッカ・ソルター | 王立美術院理事
定村来人 | 大英博物館アジア部客員研究員
イスラエル・ゴールドマン | 浮世絵専門家

19世紀の日本画家「河鍋昉斎」の生涯と作品を探るトーク&ディスカッションイベント。ロイヤル・アカデミー・オブ・アート (RA) で開催した展覧会「Kyōsai: The Israel Goldman Collection」に合わせて実施。定村来人氏が昉斎の生涯を語るとともにRA展のキュレーションの舞台裏を紹介。またレベッカ・ソルター氏とイスラエル・ゴールドマン氏が、昉斎の魅力と影響、そしてキュレーションと収集の関係について紹介。



イベント (SHOP内)

木桶と茶筒

2022年2月16日——6月15日

2022年6月2日 トークイベント

企画展と施設内のショップが連携し、様々な特集を行っている。例えば、現代における職人のあり方、次世代に向けてこの専門的な技術をいかにして継承していくかという課題について、開化堂の八木隆裕氏（茶筒職人）と、中川木工芸の中川周士氏（木工芸職人）の2名の著名な職人によるトーク&デモンストレーションイベントを実施。会津木綿の製品の背景や作り手の紹介を交えつつ、ショップでの販売も促進した。



ハイブリッドイベント **

Yellow Flower Dream:
Beatriz Milhazes in
Conversation with
Dr Sofia Gotti

2022年6月19日

出演：ソフィア・ゴッティ | 美術史家

犬島におけるミラーゼス氏（ブラジル人アーティスト）の作品「Yellow Flower Dream」の創作及び発展について取り上げたほか、美術史家のソフィア・ゴッティ氏と犬島におけるアートや環境、日本コミュニティとの関係に焦点を当て、1980年代以降のミラーゼス作品を通じて犬島の活動等を紐解き、歴史的・芸術的文脈について紹介。



ウェビナー **

日アフリカ関係及び
進化する多国間主義

2022年11月23日

共同企画：王立国際問題研究所(チャタムハウス)

スピーカー

薬師弘幸 | JICAアフリカ部次長

スカーレット・コーネリセン | ステレンボッシュ大学教授

シュエボ・グワティワ | ウィットウォーターズランド大学講師

ニスリン・アブエレス | 三井住友銀行アフリカグループ長

モデレーター

アレックス・ヴァイン | チャタムハウス・アフリカプログラム部長



日アフリカ関係及び多国間主義について、日本、英国、アフリカのスピーカーが議論。薬師次長からは、令和4年8月にチュニジアで行われた第8回アフリカ開発会議(TI-CAD8)の成果について、人とレジリエンスへの投資の重要性、特にアフリカの若者への投資の重要性が強調されたことなどをあげて説明。また、質疑応答では、アフリカへの投資に関する課題や、アフリカにおける日本とG7諸国との多国間協力などについて意見が交わされました。

ハイブリッド講演 **

日本における
持続可能な森林経営

2023年1月19日

協力：林野庁

スピーカー

飯田俊平 | ジェトロ・ロンドン事務所農林水産・食品部長

モデレーター

サイモン・ライト | ジャパン・ハウス ロンドン企画局長



飯田部長から、日本では森林が国土の三分の二を占めることなどを紹介しつつ、日本の持続可能な森林経営や木材の利用促進について、その取組や活動を紹介。特に「2050年カーボンニュートラル」の実現のための取組として、二酸化炭素を吸収・貯蓄する森林を保護し、その能力を強化する取組について説明しました。

ウェビナー **

ASEANとの協働：
英国は日本の経験から
いかに学べるか？

2023年2月1日

共同企画：王立国際問題研究所(チャタムハウス)

スピーカー

大庭三枝 | 神奈川大学教授

ベン・ブランド | チャタムハウス・アジア太平洋プログラム部長

モー・ツァザール | ユソフ・イサーク東南アジア研究所(ISEAS)フェロー

モデレーター

ビル・ヘイトン | チャタムハウス・アジア太平洋プログラム・アソシエイト・フェロー



大庭教授から、日本とASEANが対話パートナーとなって得たものとして、政治的関係強化の意志を示し、信頼関係を構築・強化し、共通の課題を解決するためのプラットフォームを構築することができたことを紹介。また、ASEANと関わるにあたって重要な点として、経済成長を越えて持続可能性と公平性についても考える必要があること、また、ASEANはルールに基づいて地域秩序を構築することが重要である点などを指摘しました。

JAPAN HOUSEの地域プロジェクト

JAPAN HOUSEは地域活性化に対する働きかけプロジェクトとして新潟県燕・三条地域の「工場の祭典」事業をベースに、「Biology of Metal 金属の進化と分化」展を実施。

この地域で作られている金属加工製品の精度の高さ、そして、職人のスキルの高さがロンドンで注目を集めた。また、ロンドンでの職人による実演や講演、物販なども実施。その結果、現地企業とのコラボ商品開発、観光誘致、学術交流等に発展。展示を終えてすでに3年以上となるが、日々まだ進展し続けている。

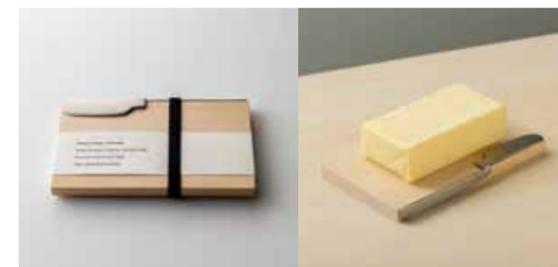
JAPAN HOUSE LONDON企画展
「Biology of Metal 金属の進化と分化」
2018年9月6日—10月23日
来場者数：58,000人

©「燕三条 工場の祭典」実行委員会



JAPAN HOUSEから生まれたビジネス

1



キャスリーン・ライリー

スコットランド出身のアーティスト Kathleen Reilly氏は、2018年にジャパン・ハウス ロンドンで開催された企画展「Biology of Metal 金属の進化と分化」を訪れ、職人たちの高度な技術に感銘を受け、自らも日本で学びたいと考え燕市に滞在し、この作品を生み出した。西洋の道具であるテーブルナイフを日本の伝統的な配膳の形式を参照し再解釈した「Oku」(オク)は Dezeen Awards-Homeware design of the year 2022を受賞。なお、現在は東京を拠点に活動を開始。

2



包丁工房「Blenheim Forge」と「タダフサ」
共同作成 包丁販売

Biology of Metal展では効果的な広報もあり、ロンドン市内で活躍する包丁工房「Blenheim Forge」などから多くの職人達が展覧会を訪れ、渡英中の三条市の包丁工房「タダフサ」の職人と出会う機会を得た。そこでの対話をきっかけに、Blenheim Forge側が三条市を訪問。相互のアイデアが結晶して、コラボ商品が誕生。(写真は刃をタダフサが、柄とケースをBlenheim Forgeが担当した) 限定品として英国で売り出したところ、数時間で完売した。

3

こうした個人や企業間での共同事業やビジネスが生まれただけでなく、実際に燕・三条地域を目指す旅行者等の促進にも繋がった。具体的には展示を見た来館者が訪日し燕・三条市の「工場の祭典」を見学に訪れたほか、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートの学生が訪日し、展覧会に参加した三条市の企業でワークショップを行うなど、活発な交流も開始された。また、ジャパン・ハウス ロンドンでの展示の経験も参考に、新潟の「燕・三条 工場の祭典」はその見せ方、演出、ポイントに変化が生まれ、「Tsubame-Sanjo Factory Museum」(燕・三条工場の祭典実行委員会が主催)が誕生する一つの契機ともなった。同Museumは、世界三大デザイン賞の一つとされる「Red Dot Design Award 2022」にて最高賞となるRed Dot Awardのグランプリを獲得。このようにジャパン・ハウスでの展示を通じ、参加した事業者・自治体がともにビジネス、学術交流、商品開発、観光誘致など多岐・多年にわたる地域活性化事業を展開していく契機になること、そこに助力するのがジャパン・ハウスの重要な取組の一つである。

企画展

The Art of
the Ramen Bowl

2022年3月18日—7月5日

来場者数：35,623人

〈オンライン展示継続中〉

企画・監修：佐藤 卓 | TSDO Inc.、橋本麻里

協力：セラミックパレー協議会

後援：岐阜県、多治見市、瑞浪市、土岐市、可児市

→ サンパウロへ巡回

「ラーメンどんぶり」に注目し、日本の著名なアーティストや料理研究家が手がけたラーメンどんぶりのオリジナル作品30点を展示。ラーメンどんぶり製造の90%を占める美濃焼の伝統的な技法や多様なデザインに加え、日本のラーメンの歴史、スープや具材にみられる地域性、ラーメンの大型食品サンプル等の紹介等も通じて、日本のラーメン文化の魅力を広く発信。

企画展関連イベント

イベント

RAMEN
DISCOVERIES

2022年5月6日—7月31日

参加者数：9,009人

協力：つじ田味噌の章、桂花、坂内食堂、
麵魚、豚山、油堂、町田商店

ロサンゼルス未出店のラーメン店7事業者が参加し、地域密着型から新ジャンルまで、様々なラーメンを2週間ごとに出品。展覧会で紹介する日本のラーメン文化の多様性やその器の世界への理解を深めてもらい、レストランスペースでラーメンを実際に味わってもらうイベントを開催。



動画配信 **

ラーメン動画シリーズ

2022年4月—

ラーメンをテーマにした動画を配信。ラーメンの作り方やラーメンどんぶりを通して展示を美しく紹介。また、新たな観点からラーメンどんぶりに焦点を当て、ラーメンどんぶりのオリジナル作品をグラフィカルに表現。



企画展

LIFE CYCLES:
A Bamboo Exploration with
Tanabe Chikuunsai IV

2022年7月28日—2023年1月15日

来場者数：47,697人

〈オンライン展示継続中〉

企画者：四代田辺竹雲斎 | 竹工芸家

「竹」をテーマに、作品の芸術的・技術的な側面だけでなく、自然との関わり方、中でも自然資源の持続可能な利用の可能性を広く提示・発信する展覧会を開催。メインは、四代田辺竹雲斎氏が手がける約1万7千本の竹ひごを用いたインスタレーション作品。展覧会の開幕に先立ち、作家自らが展示会場で作品を公開制作して制作過程をリアルに見せる、JHLA初の試みも実施。



イベント

リジェネラティブ・
アーバニズム

2023年1月27日—4月2日

来場者数：集計中

企画：カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) × LAB、東北大学災害
科学国際研究所 (IRIDeS)、ArcDR3 展覧会製作実行委員会
監修：阿部仁史UCLA教授

災害に対する防御力だけでなく、災害からの回復力にも着眼した、災害に強い都市デザイン。その先見的なアプローチをベースに作られた再生都市モデルを通じて、人と自然と都市の新しい共生関係の可能性について考えた試み。展覧会では、白い展示台の「井戸」をのぞき込むと7つの都市のストーリーが見える没入体験型の展示手法を採用。



企画展関連イベント

イベント

“Words Can’t Go There”
Screening with
Talk & Live Performance

2022年8月24日

主催：国際交流基金 ロサンゼルス日本文化センター
出演：John Kaizan Neptune, David Neptune

「LIFE CYCLES: A Bamboo Exploration with Tanabe Chikuunsai IV」展の関連イベントとして、尺八のライブ演奏とドキュメンタリー映画「Words Can't Go There」の上映を行い、竹に関連した木管楽器の一種である尺八の芸術性等を紹介。



ハイブリッドイベント **

Chasing the Eccentrics:
Takashi Murakami in
Conversation with Etsuko Price

2022年5月20日

共催：The BROAD
出演：村上隆 | アーティスト、エツコ・プライス | 日本美術コレクター

ロサンゼルスザ・ブロード美術館とのコラボレーションによる、村上隆氏とエツコ・プライス氏の対談。プライス氏が所有する日本の江戸時代の美術コレクションの中にある伊藤若冲が取り上げられ、伊藤若冲と村上隆氏の接点が着目され、日本の芸術について語られた。



イベント

日本の農林水産物・食品の
輸出促進及び日本食の普及

2022年4月26日
共同企画：米国輸出支援プラットフォーム

スピーカー
杉中 淳 | 農林水産省輸出促進審議官
中村春彦 | 在ロサンゼルス総領事館領事
瀧 統 | ジェトロ・ロサンゼルス事務所長 等



輸出先国において、輸出事業者を専門的かつ継続的に支援する農林水産省の「輸出支援プラットフォーム」が初めて、米国のロサンゼルスとニューヨークで発足し、ジャパン・ハウス ロサンゼルスでその立ち上げ式が開催されるとともに、「日本食普及拡大のための覚書」が署名されました。

ウェビナー

ウクライナにおける
戦争がインド太平洋地域へ
与える影響

2022年9月15日
共同企画：ランド研究所

基調講演
ハリー・B・ハリス | 前駐韓大使/元米太平洋軍司令官
パネリスト
畔蒜泰助 | 笹川平和財団主任研究員
ダラ・マシコット | ランド研究所政策研究主任研究員
マイケル・マザール | ランド研究所上級政策研究員
モデレーター
ジェフリー・ホーナン | ランド研究所シニア政治学者



ハリス前駐韓大使・元司令官から、インド太平洋地域の同盟国間の戦略的重要性について説明。パネルディスカッションでは、畔蒜主任研究員から、岸田政権によるロシアのウクライナ侵攻への対応や日露関係について解説するとともに、アジア太平洋地域の安全保障問題について中露関係や北朝鮮の動きをよくフォローすることが重要である旨を指摘しました。

セミナー

国際女性会議 in LA：
共生社会における女性の
重要な役割

2022年12月8日

講演 中澤英子 | Dearest Inc. 代表
パネリスト エレン・アサトリアン | グレンデル市議、
ジャネット・パート | Lewis Brisbois Bisgaard&Smith国際関係多様性・
ビジネス開発ディレクター、マリア・サリナス | LA地域商工会議所会頭、
レナタ・シムリル | LA84ファウンデーション会長
モデレーター 海部優子 | ジャパン・ハウス ロサンゼルス館長



曾根健孝在ロサンゼルス総領事から、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを実現するための日本政府の取組の一環である「国際女性会議WAW!」(World Assembly for Women) について紹介したのに続き、中澤代表から、日米両国での起業を含めた自身の経験とキャリアについて講演。また、パネルディスカッションでは、さまざまなコミュニティを代表する女性リーダーが、文化的社会的なステレオタイプを乗り越える苦労や困難、若い世代へのメッセージなどについて意見を交換しました。

セミナー **

グローバル・ジャパン・
フォーラム 2023：
災害とデザイン

2023年1月28日
共同企画：カリフォルニア大学ロサンゼルス校
(UCLA) テラサキ日本研究センター
Photo: Eiji Ina

スピーカー
第1部 今村文彦 | 東北大学教授
レナート・ダレンコン | チリ・カトリック大学教授
ジャック・コーエン | 元米国森林局調査官
第2部 貝島桃代 | アトリエ・ワン プリンシパル
重松象平 | OMAニューヨーク パートナー
モデレーター
ウィリアム・マロッチェ | UCLA准教授 等



第1部は世界の災害をテーマに、今村教授から、東日本大震災で得た経験と貴重な教訓について紹介。また、米国及び南米を襲った様々な災害や、私たちが歴史的に災害に適応してきた方法について議論がなされました。また、第2部はデザインをテーマに、2人の建築家が、避けられない自然災害に備え、生活環境をいかにデザインするかという課題について議論しました。

セミナー **

未来を拓く：
水素及び炭素マネジメント

2023年2月6日
共同企画：カリフォルニア大学ロサンゼルス校
(UCLA) カーボン・マネジメント研究所

スピーカー
第1部 グラフ・サント | UCLA教授
原 直樹 | JFEエンジニアリング・アメリカ社長兼CEO 等
第2部 横尾将士 | 日本水素フォーラム創設者兼議長
ジェイ・ジョセフ | ホンダ・アメリカ副社長
フランク・ウォラック | 米燃料電池・水素エネルギー協会CEO兼代表 等
モデレーター
ブライアン・ゴールドスタイン | Energy Independence Now エグゼクティブ・ディレクター



第1部は脱炭素をテーマに、サント教授より、海洋から二酸化炭素を取り出す技術の実証実験について説明。続いてパネリストがそれぞれの団体の脱炭素に関する取組を紹介し、将来の取組の見通しや今後の協力の可能性について議論。第2部は水素エネルギーをテーマに、ロサンゼルス港の取組や協力する日本企業の対応を紹介し、パネリストそれぞれの立場から水素エネルギーに関する取組の現在と将来について議論しました。

ウェビナー

日米同盟から見た
台湾海峡

2022年10月10日
共同企画：ランド研究所

基調講演
マシュー・ポティンガー | 元米国国家安全保障担当副補佐官
パネリスト
コルテス・クーパー | ランド研究所国際関係・国防シニア研究員
松田康博 | 東京大学教授
シーラ・スミス | 外交問題評議会(CFR)アジア太平洋研究シニアフェロー
モデレーター
ジェフリー・ホーナン | ランド研究所シニア政治学者



ロシアのウクライナ侵攻や台湾の安全保障上の問題は、国際秩序を保護し維持する戦いに米国及びその同盟国を巻き込むリスクがあるとして、ウクライナ情勢と台湾の問題の関係について、また、国際社会の平和と安定の維持のための方策について議論しました。



JAPAN HOUSE

JAPAN HOUSE SÃO PAULO

Av. Paulista, 52 - Bela Vista,
São Paulo - SP, 01310-000, BRASIL
<https://www.japanhousesp.com.br/ja/>

JAPAN HOUSE LONDON

101-111 Kensington High Street,
Kensington, London W8 5SA, UK
<https://www.japanhouselondon.uk/>

JAPAN HOUSE LOS ANGELES

Ovation Hollywood 6801 Hollywood Blvd.
Level 2 and 5 Los Angeles, CA 90028, USA
<https://www.japanhousela.com/>

ジャパン・ハウス東京事務局（外務省戦略的対外発信拠点室）

クリエイティブ・アドバイザー 原 研哉

サンパウロ——株式会社電通

ロンドン——Japan H. L. Limited

ジョーンズ ラング ラサール株式会社（～2019年6月）

ロサンゼルス——株式会社電通ライブ

株式会社 ESP（～2019年6月）

www.japanhouse.jp

